

## 東北観光博実行委員会準備会合 議事概要

1. 日時 平成24年1月29日(日) 10時30分～11時55分

2. 場所 ホテル福島グリーンパレス 2階 瑞光東の間

### 3. 出席委員

溝畑宏(観光庁長官)、佐々木郁夫(青森県副知事)、上野善晴(岩手県副知事)、河端章好(宮城県経済商工観光部長)、中野節(秋田県副知事)、高橋節(山形県副知事)、佐藤雄平(福島県知事)、森島聡(社団法人日本経済団体連合会産業政策本部主幹)、須田寛(日本商工会議所観光委員会共同委員長)、星野佳路(公益社団法人経済同友会観光立国委員長)、高橋宏明(社団法人東北経済連合会会長、東北観光推進機構会長)、鎌田宏(東北六県商工会議所連合会会長)、吉田正嗣(社団法人日本観光振興協会理事長)、中村達朗(一般社団法人日本旅行業協会理事長)、鈴木明治(社団法人全国旅行業協会副会長)、清谷伸吾(東北運輸局長)

### 4. 議事

- (1) 開会
- (2) 観光庁長官挨拶
- (3) 県知事ご挨拶
- (4) 東北観光博の概要
- (5) 東北観光博実行委員会の設置について
- (6) 当面のスケジュール
- (7) 審議・確認事項
  - 1) テーマ、目標等について
  - 2) 第1回東北観光博実行委員会及びオープニングイベントについて
  - 3) 関係ツール等における実行委員会の名義使用について
  - 4) ロゴマーク・名称の使用及びサポーター制度について
  - 5) 記者発表資料(1/30)について
  - 6) 今後の進め方について
- (8) 意見交換
- (9) 報告事項：本格実施に向けた準備状況について
  - 1) コンセプトブック
  - 2) 公式ガイドブック
  - 3) パスポート
  - 4) ゾーンパンフレット
  - 5) ポータルサイト
  - 6) ポスター
- (10) 閉会

## 5. 挨拶

### (1) 観光庁長官挨拶

- 東北観光博開催の意義は、観光を通して東北復興を力強く進めること。
- 地域の人々による自主的・主体的な観光資源の創造および訪れた人との交流を促進し、これを新しい東北の魅力として誘客を推進し、東北の元気を取り戻す。
- 福島県は関東大震災後の東京復興に尽力した堀切善次郎を輩出した地であり、復興のシンボルを有する地。本日の会合を、今も風評被害の続く福島県で開催させて頂くのは、福島を起点に東北を元気にしたいという熱い思いから。
- 東北を元気にすることが日本を元気にするとの認識を共有し、観光博を成功に導きたい。

### (2) 福島県知事挨拶

- 東北は、歴史、文化、そして東北人の人情、もてなしの力など多くの魅力を有する。
- 福島県の観光産業は、地震、津波、原子力災害、風評被害により打撃を受け、なかなか回復していない。東北観光博は福島県のみならず、被災地・東北の復興の要、フォローの風になると期待。
- お客様に来て頂くことが大変重要。福島県に来られたお客様が帰る際に「楽しかった」「来てよかった」「予想と違い福島県は元気だ」とおっしゃると、県としても励みになる。
- 観光に関係の深い食については、徹底したモニタリングにより安全を確保し流通。

## 6. 議事概要

- 4. の議事 (4) ~ (6) と (9) について資料説明があり、質疑は特段なし。
- また、議事 (7) の審議・確認事項について、各委員から了承された。
- なお、議題 (8) の意見交換における各委員の主な発言内容は7. のとおり。

## 7. 主な発言内容

- 広く東北を廻って頂くため、東北全体のイベント・見所等の情報の疎通が大事。また、東北観光博で培ったシステムを会期後も活用することがリピーターの創出にもつながる。
- お客様に旅の目的を明確に伝えて送客につなげたい。その意味で期間中に、歴史、文化、食等について、目に見えて形が変化していくものがあると送客を強化できる。
- 東北観光博の実施における情報発信の重要性を認識。今後、東北に注目が集まる様々な機会を活かし情報発信。「なぜ東北に行くのか」を支える物語性、テーマ性が必要になる。
- 事業の後半期までに、事業の効果—東北観光を今後定着させる仕組みの検討、具体的には、東北地域の訪問に欠かせないレンタカーのナビに観光コンテンツを載せ、英語表記も付ける等はどうか。

- 震災後、修学旅行のキャンセルが大きな打撃となり、観光業界全体に波及した。修学旅行は保護者の意向もあるため、当地の正確な知識・情報を発信していく必要。
- 送客の手段として、住宅エコポイントの活用を推進。同ポイントでは東北の復興支援がテーマとなっており、ポイントを東北への旅行商品に交換できるようにした。
- 春、夏、秋、冬の祭の連携を行っていき、東北観光博と連携していきたい。
- 効果や考え方ができる限り定着して経済効果も長続きするような工夫をお願いしたい。
- 会期後のあり方を最初から考え取組んでいく必要。東北観光博とは各地域が自走していきける仕掛けをつくる期間と認識し、地元としてしっかり取組みたい。
- ゾーンごとにテーマが作られるとのことだが、ゾーン間のテーマ的な連携も必要。連携テーマとして発信するほうが効果的。
- お客様の祭り等への思いは強い。東北6県でイベントを行う必要。
- 国には、県単独ではできない地域コンテンツの広域連携と、地域観光案内人等の研修など人材育成に期待。

以上